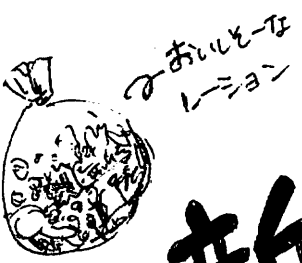
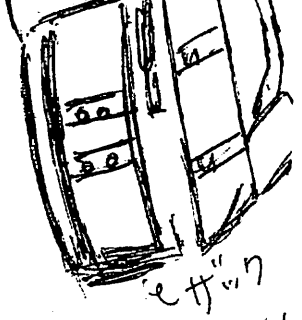
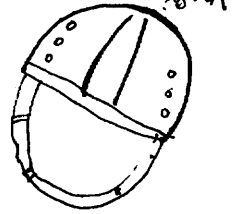




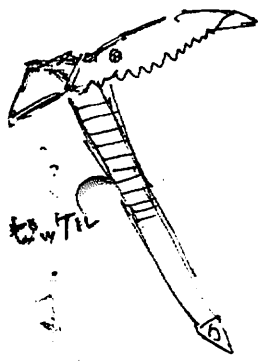
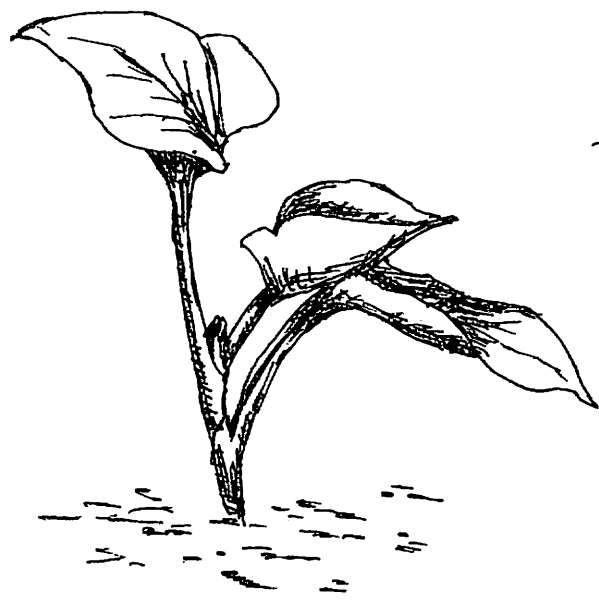
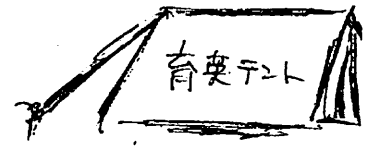
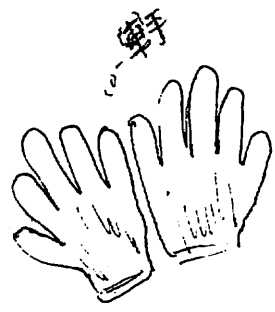
2000



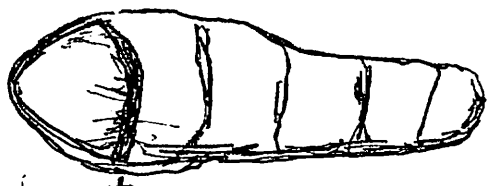
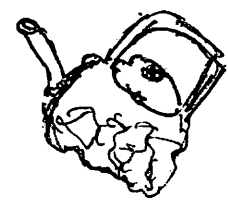
2001



# 新人合宿



芽が出たかやあー？



by. Em

## 新人合宿 5/20~27

100~500 砂防ダム 520~\*A 隊 900 岩魚留小屋~1400 徳本峠\*B 隊 1000 岩魚

0 徳本峠 : 合流 1600~1830 明神 T.S

岸本さん、ポンドさん、日高さんの見送りを受けて出発。感謝。一年生の荷物

、女約24kg。皆初めての重さに終始無言。しかし、やっと辿り着いた徳本峠では、

にしばし感激する。徳本峠小屋の主人に感謝。下りは急な雪の斜面となっており、

食う。途中、数名の団装をぬく。この日は何とか頑張って明神のT.Sに辿り着いた。

0~出発 700~1200 横尾 B.C

来てて歩いてB.C入り。イヤー、やっぱりいつ来てもここはいい！午後、偵

りんびりとした一日であった。歩荷お疲れ！

0~出発 530~820 溜沢ヒュッテ 850~900 雷訓 1130~1430B.C

から雨の予定、一年生も疲れていて気が進まなかったが、とりあえず溜沢を見て

う事になり、出発。例年通りの溜沢走りに一年生は閉口。ガハハ、走れ走れ！この

は雪脚を切り上げて早々と下山した。

、雨、雨。一年生にはいい休養になったことだろう。

0~出発 530~930 蝶ヶ岳 1000~1320B.C

もう沈殿はいやだ！風邪と足の不調な二人と林太郎を残し、蝶ヶ岳に向かう。突

雪が出てくるが問題なし。山頂についても天気は悪く寒いので、早々と下山する。

ことはない蝶ヶ岳。雨の蝶は定番中の定番だ。不遇な蝶ヶ岳。

0~出発 530~800 溜沢ヒュッテ 830~850 雷訓 1400~1615B.C

晴れた。今日こそ雷訓を仕上げたい。溜沢に向かう。相変わらずのバシリ。牛田

がいまいちなので、二人は別行動で雷訓をすることにした。雷訓は主にピッケルス

に行った。初日と比べたら見違えるほどにうまくなる。雷訓は皆の気合で意

る。なかなか筋のいい一年生だ。この日の下山中、北尾根に登る岸本さん、ポンド

う。知り合いに会うのはいい。お互いの健康を祈る。一年生の疲れは相当にたまっ

明日は頑張って槍を目指すことにした。残念ながら中福が足の不調で行くことを

事逆で逆に皆の意識が高まったように感じた。何年か登っていても、教えられるこ

とくさんある。

0~出発 330~610 槍沢ロッジ~730 大曲り~740 槍沢走り 900 殺生ヒュッテ 920~

1110~1630B.C

たすら槍沢を詰める。実は昨日、上級生が「イヤー、やっと溜沢走りが終わった

いたのを聞いて一年生は「今日は気楽に登れる。」と踏んでいたらしい。そうは

ってもらうよ」と言った時の一年生の顔は忘れられない。バシリ後、肩まで行く

された時間がほとんど無くなっていた。加えて、強風と一年生の疲労を考慮して、

系

入  
早

↑

座

1

残念ながら山頂ピストンは諦めることにした。残念だが仕方ない。一年生も登りたくても登れない時がある、という事を身をもって体感できて良かったのではないだろうか。帰りはシリセードを使ってせーつと降りる。途中雨に降られたが、4時半にB.Cに着く。すでに、ノックと岸本さん、ポンドさんが宴会の準備をしてくれていて、早速仕上げに取り掛かる。雨が時々降る中、天井を作り、焚火を囲んで宴会を始める。雨だったのが残念だが、最後に春寂寥を歌って締める。良い一週間だったと実感した。

5/27 起床 600～出発 820～1020 新村橋～1035 墓参り 1130～1200 徳沢～1345 上高地

朝、雨が残っていたが、お墓参りに向かうにつれ、急速に晴れ出す。ミラクル健在。これで10年近く新人合宿最終日は晴れているのではないだろうか。お墓参りは毎回、気持ちを新たにさせてくれる。最後、河童橋からダイブして無事合宿が終了した。

今年度は、出発前は10日間ほど天気のよい日が続いていたが、我々が入山してからはひたすら雨降りであった。そのため、合宿の計画消化という面から言えば6割ほどの出来だったと思う。しかし、雨の中蝶ヶ岳に登ったり、集中して雪割を行えたり、槍では強風を体験できたりと、一つ一つの内容は濃かったのではないと思う。「ばしり」もいっぱい出来たし……。

上級生の不足により、十分な1年生のフォロー体制をとりづらく、毎日頭を悩ませた。槍ヶ岳の日に至っては、ノックはペース待機（中樞の付き添い）、佐藤と林太郎はFIX隊、よって本隊は1年生5人に対し、上級生は梶とジャンボの二人となり、非常に気を使った。槍沢走りにしても先頭と最後尾に付くだけなので士気は上がらないし、もしガスがかかったりしていたら、するべきではない状況だった。また、毎年出していた登攀隊を今年出せなかった。これは上級生が少なくそんな余裕がなかったためであり、仕方のないことだが少し残念であった。佐藤くらは屏風に連れて行ってあげられればよいのだが。そんな感じで上級生不足が顕著であったが、工夫次第で何とかカバーするべきであるし、また可能であると感じた。でもやっぱり多いほうがいい。そりゃそうだ。

1年生はよくやった。雪割は練習時間が少なくなってしまったが、その中でも集中してよく出来たのではないと思う。生活技術に関しては特に問題となるようなことはなかったが、自分から積極的に仕事を探す努力がもう少しほしい。顕著な体力不足はなかったが、やはり6人の中でもばらつきはあり、逆に際立って体力のあるものもいなかった。早い話がまだ体力が不足している。これから先、よりいっそうの努力を期待する。

一人の怪我人も出さず（足の不調、風邪等はあったが）、充実した合宿であった。これから先の活動に今回の経験を生かしてゆこう。一人一人が高い意欲の下に登山を続けていってくれることを期待する。

最後になりましたが、見送りをして下さった方々、差し入れを下さった皆さん、応援をして下さった皆さんに感謝します。おかげさまで良い8日間を過ごせました。どうも有り難うございました。

（文責：横山）

個人  
の  
反省・  
感想

# 新人合宿の感想

山岳会に入って初めての山行。きつかったことは、もうほとんど忘れてしまいました。それだけ楽しかったということでしょうか？でもやっぱりバシリはもうやりたくありません。

## 歩荷

今回は24.5kgだった。この重さには経験があったが、行動時間が長く、慣れないピッケルを片手に雪の上を歩いたのでかなり疲れた。それにしても、ガッシャってたくさん入ってすごい。もちろんチャームポイントはあの鍋でしょう。

## 雪上訓練

雨の雪訓1日目、寒いし、腹は減るし、雨具には穴があいたし...ツツしかし3日後の雪訓2日目、ピッカピカの晴れ。☀️ピッケルストップができた時は思わず自分を疑ってしまいました。

## 体調管理

合宿2日目の朝、なんと発熱...結局熱が下がったのは6日目だった。この間は薬をもらったり、B.C待機の付き添いをしてもらったり、皆に心配かけて、ここに書ききれない程親切にしてもらいました。山に行く前も

後も、自分の体調管理を怠ってはいけない  
と思いました。皆様に感謝……

絆

今回山岳会に教わったものといえば、  
「きずな」だろう。「きずな」で登る山があるとい  
うこと。ああ、いいことだなあ。  
山岳会のこと、もっと知りたくなりました。

最後に自分のコトを少し……

私は、かっぱ橋の横でマダムに  
「ちょっとボク、写真撮ってちょうだい」  
と言われた。(らしい)。

「ボク」と呼ばれていることに気付かなかた。  
自分にびっくり。「ボク」と呼ばれる程、幼く  
見られた自分にびっくり。

BOXで、ちょっと大きめの坊やを見かけたら、  
かわいがってやって下さい。

イヤ～、合宿楽しかったよう。

井上 あゆみ

## 101 新人合宿 反省・感想・魂の叫び

自分は合宿前、Box トートに自分の合宿の目標は  
For the team と書いてあった。

実際は、合宿中この言葉の前には Note が付けられて  
仕方が無かった……

この合宿を通しての自分のイメージは、毎晩寝るを  
言い、ケロばかり吐いて、いる奴ぐらゐである。

ここで書ける事も反省しかなかった。雪訓の日にはカンクラスを  
忘れた、天手。橋ヶ岳の日には雨具を忘れた事。合宿に  
体調を合わせる事ができなかった事。本当に御免な……

一番嬉しかったのは、橋ヶ岳の日だった。往路自分は全くヤル事  
が無かった。ある一本の間自分がテントにバケツを振り、  
万が一テントにしていれば、リーダーに「おめえ天幕にテントの力  
を忘れた時の事。自分は今の時は、「おあう、どうしてか  
死んでやる！」、等ぶっ飛ばさ、橋ヶ岳小頂付近の強風に  
あおられ、すごく寒がった時は心臓死に近く無……と死んだ。  
本当に自分はどうしようも無い大馬鹿野郎だと良くわかった。

どう仕舞い無……自分を1週間見せつけられた自分は最後は  
自分をアッパルしたかった。牛水が伏沢から河津橋までの  
行動だった。少しでも「まし」な自分でいたい、と牛水  
の行動だった。~~自己満足~~

合宿も終わり既に1週間直ぐにこうとしている。あんなに  
嫌だった山が、この頃になつて思える。

山を眺めるのに決まりきった言葉しか出てこないけど、  
マジで自分の目を凝らすのが光栄。尊敬だった。

山に永くおもしろい人間、そして For the team が実践できる  
人間になりたい……

# 新人合宿 所感 ~ ひょうひょうとして思われしこと ~

初めての登山ではなかったが、多くの(初)が<sup>片寄 哲生</sup>つきまじり7日間であった。何かを書き始めればよいか悩んでみるものの、いざとなると、頭は空白のままである。まるであの槍沢のように……。そう!! 槍沢!! あの はるか彼方まで続く地平線の如き雪渓よ!!  
いふなれば私は



こんな状態。

しかしながら、こんな私に授けられた形容詞は



「ひょうひょうとしていいる(=またまたいけるたろくの意)」であった。自分では限界点で体を進めていたつもりだったのに。「限界」そうだが、この言葉が今回の合宿のキーワードではなかったが、30kg overの荷物14時間ホッカ、肩に石をはさんだよくな2日目のホッカ、集中、槍ヶ岳、……。多くの限界の中で本当に自分の限界と正面き、対峙できたか心づか自信がない。限界の重荷に耐えていると同時に自分のことしか考えられずにいる自分に気づいた。

碧天と、走りゆく雲とを思いのままに身に纏うあの勇ましい槍ヶ岳を目の前にしながら、ジャンボさんの下山宣告を耳にした時は、理由もわからず涙が出てきた。肩の小屋までの道のりにこてんぱんにされた自分が槍ヶ岳の前で恥ずかしすぎるほど不甲斐なく思われたからのような気もする。次に会った時は必ずお前の鼻をあかしてやるぞ!!と心に強く念じた自分であった。

涸沢、槍沢の中央に行んで、自分があまりにち、ほけなことにも悔しさと衰しさを感じた。山にとって…自分という存在は露ほこにも記憶にとめられないまま時が過ぎていく。自分以外のすべてが永遠のまま、瞬間にすぎない自分が、その大海原で息を切らしていることが非情に思われた。腹立たしかった。

今回の合宿では、また一つ自分の姿をまざまざと見せつけられた。これからの山行で、どんな自分がつきのけられてくるか楽しみとしようと思う。



# 新人合宿を終えて

高谷 菜太郎

新人合宿が終わった。長いようで短くけれどもとても充実した忘れ難い一週間であった。この新人合宿で経験した事が、これからの山岳会での活動で充分に生きるよう反省・感想を踏まえて明日で振り返ってみたいと思う。

初日。これまで体験した事のない30kg以上の荷物を背負っての徳本峠越え。重い荷物に耐えながらひたすら歩く。歩く、歩く、牛のように歩く。そして、登りの最後のヒックで遂に完全にバテてしまった。その上、ヒッケル使用のための綿半單手をハイキングの一番下の方に入れるといふ大きなミス。これにより時間を大変ロスしてしまった。腑甲斐無い自分がひたすら情けない。けど、徳本峠から見た穂高は素晴らしい。綺麗だった。感動した。それと同時に怖かった。雪をまとった穂高は人を受け付け無いような堂々とした威厳に満ちた姿でそこに鎮座していた。

二日目。明神T.Sから横尾B.Cへの移動。この日も重い荷物に耐えながらひたすら歩く。歩く、牛のように歩く。そして、横尾B.Cに到着。B.Cは屏風岩も良く見え、緑あり、川ありの素晴らしい所。

三日目。涸沢での雪訓。ここで恐怖の涸沢走り。自分の体力の無さに絶望する。来年こそはぶらちぎでやると心に誓う。雪訓はヒッケルストップで止まらない重量級の自分を体を張って止めてくれた先輩にひたすら感謝。感謝。

四日目。雨のため沈滞。ひたすら体の疲れを取る。

五日目。雨の中の蝶が岳登山。あいにくの天気の中での登山で展望もきかず疲れたが、雷鳥のつがいと、哲生師の「心の中の青空」発言に癒される。

六日目。涸沢での雪訓。涸沢走りで再び自分の体力の無さに絶望。雪訓では基本的な技術を一通り習得。

七日目。槍ヶ岳登山。朝早い出発。そして突然の槍沢走り。やはりここでも自分の体力の無さに絶望。来年こそは。風と時間切れにより登頂断念。来年こそは。

八日目。最終日。横尾B.Cから上高地。再び重い荷物を背負っての歩荷。しかし心は軽い。お墓参りをした。心に何か迫ってくるものがあった。そして、河童橋からのDIVE!! 気持ち良かった。川から上がった後、人ゴミを縫って走り去るKnockさんの姿がとても印象に残った。

このように新人合宿は終わったわけだが、分かったことは、自分の体力の無さと根性の無さ。そして自分の腑甲斐の無さだ。修業あるのみ。しかし、この合宿を終えたことにより、山岳会の門をくぐり、信州大学山岳会の一員となれた事はひたすら嬉しい。

時々、何故苦しくて、つらい登山を自分は好き好んで続けようとするのか考えることがある。そして大抵の答えは出ない。山岳会での活動を通じてその答えを探しゆければと今の僕は考えている。

宣言

やせます。やせて見せます。

目標 17kg以下(夏の岩合宿前までに)

# 新人合宿 を終え 1年 中福 留

1週間、本当に「ア!!」という間に過ぎました。  
振り返ってみると、17山を越えたのが、って感じ  
です。始まる前、1週間は何モロモ、そんなので、新人  
合宿のことばかり、考えしていました。島谷谷から出発  
となった時は、何か、楽感もなく、「え、何でこんな?」って  
感じでした。出発の時、荷がくりかへしたのが、反省点  
です。最初、荷物を持とうとした時は、本当、重くて  
どうしようかと思いました。まあ、ひたすらもっていくので  
下で、それから、背中に持って行くのが、私一番苦  
しい。20kgの荷物が、もう、ハハハ言っていました。  
この水で、夕方まで歩くかと思わたり、さうして  
下へと下へ、峠の頂上まで、と思い、何モ考えず、必  
死で歩きました。峠に着き、倒れこんでいると直子「お  
お、上見!」という声をおいてくれた。上を見れば、  
目の前に、山がそびえ立っていました。本当に美しい。  
雲一つない空に、山が、くまなくうらみあがっていました。  
感激して、涙がこぼれました。あ、景色は一生忘れません  
下りて、knock inとジャンボインに荷物を持参、2モらた  
時は、すこしくせしたです。最後私、自分でなしてけ  
たのが、本当にくせいです。でも「暗くなる、遅い路  
から」と言われ、断念しました。  
3日目の涸沢での雪訓では、「涸沢ばし」はあつたので  
二日二日からの「何だ?」と思いつから、いまだ、「走れ!!」と  
言われ、みんなが走り出した時には、おたがおからなまは走  
っていました。最後だったので、みんなの声援がすこしくせ  
たです。しかも、みんなに励まされました。  
自分の身を犠牲にして私を指導してくださる先輩たち  
を見て、「がんばらなさい。」って思いました。  
足が痛くて、歩けなくなるとは、みんなが、私の歩調にあわ  
せて、いっしょに歩いてくれた。「かまはれ!」って応援してくれた時  
あつたのでした。

2回目の雪割りの帰りに、knock INと2人行動の帰りに、何となく、ジョーンと私としゃべりながら歩いてくたしたknock INには本当に感謝しています。「歩けば、つく！」と言われ、うしろを歩きました。ジョーンは長い道より歩いて、全然つまずかずに、全然雪がたかくなりませんでした。何度も、あんなにうらやまになりました。途中で、ボニーとBOND INにあって、互いに抱き合ったりして涙が出たりしました。足をたたく見えて、つまずかずに歩きました。とくとく暗くなるといっく気がして、ジョーンはあせりました。雪がたかくなり、たかくなり、ハハハ言いながら、棍棒で、走って、ジョーンに走って来たのが見えた時は、本当に、心にとくとくおぼれたい、何となく、つまずかずに歩いていく感じがして、ジョーンは、それからは、2人がしゃべりながら、テテテテテテしゃべりながら歩いてくたしました。それでは、着きました。テテテテテテ歩いて、歩いて、やがて、テニ場に到着した時は、7時ごろでした。みんなが、手を洗って、「おかしや」と出迎えてくたさるのを見て、私は、じーんとしました。みんなが、「いたからがんばれたんた」と思いました。

その日の夜、いっしょに、明日は「槍ヶ岳」といふ時、私と槍ヶ岳に行くための準備をしたと言った。直子が、「しゃべりながら！荷物全部持って。それは身一つで行けることと私が行けるが、いいん。やんこいいから。」と言った。泣いてくたした時は、ジョーンは泣いてくたした。本当に、いい仲間を待たされた。私を涙がとまらなくなった。結局、槍ヶ岳には行けず、「やんこ、たてど、足がたかいたら、絶対、行ける！」

つらい時は、つらいが、楽しい時は楽しい、みんな大好きです。みんながいたから、かたはれたんたと思えます。

3ヶ月ほど、よ、あんなに楽しかったな、とつくづく思っています。新人合宿から、帰って、少し成長した、と思えます。精神的にも、よくなったと思えます。

初めに、山に行く、山で生活をしたことが、山が、いいと思えるようになりました。

それから、かたはれたんたです。

## < 新人合宿の反省、感想 >

思い返せば、新人合宿は、早朝のたなあと感じている。  
初日の 5/20 を迎えるまでの準備期間もあ、という間だったけれど、本当の合宿 8 日間、もう夢だったような気がしている。今、ここで大学に通って生活していると、あの雪や雨の中で合宿していたことが信じられない。

濃い 8 日間だったと思う。

初日 夜が明けないうちに BOX を出て、田園地帯を通過して島々谷へと車で送ってもらった時は、これからどんなことがおこるんだろうと漠然と考えていた。

今から想えば、その時の予想をずっとこえた日々が待っていた。それを顕著に表しているのが「潤沢はじり」だったと思う。

最後の槍ヶ岳も、悪天候の敵。1年の私にとっては、こゝろが先行して、うまく進められた。

山頂からの風にあおられていると、こわくて、動けなくなる時がしばしばあった。

そんな強く印象に残っている事以外にも色々な事があったので、記しておきたいと思う。

まず、2日目の雷山川が「決壊して」中止になった日、テントの中で「すごした」時間も貴重で楽しかったという事。

そして次の日、峰ヶ岳に登ったけど、皆しほは来れなくて、その上何も見えず、喜びが半々減った事。

槍の日も、100% 土と愛留が来れなかったけど、愛留の足が治ったからまた槍に来ようと約束した事。

最後の日の一菜芸々、すごくおいしかった山菜丼、皆と話した

身。挙げていくとキリが"ないなあ。

風景の美しさはたぬい木の連続だったし、食いしごきもある意味、たぬい木の連続だった。

これから必ず必要になっていくであろう雪割も、自分の命をこれらの技術で"守るんだ"と思うと、やはり必死にならざるをえなかった。落石の事も、危険と隣あわせなんだ"と身にしみて痛感させられた。

〽目の合宿で教わったことは、全てこれからは役立ていくんだ"な、と今再び思い返している。

新人合宿は、自分が"試される機会になる、"と聞いていた。

正直、女であるという気負いも少なからず"あったし、皆のことをどれだけ理解できるのか、という気持ちもあった。

山から何か少しでも得られたらいいと思っていた。

何より、自分が、どの位山とつな合っていけるのか知りたかった。

終ってみて、その疑問の半分位は解消できたかもしれない。

山岳会の根本に流れるものを少し垣間見れた気がした。

たし、山では"一人でなく、皆いっしょでなくては"いけない"ことが"ある、ということも分かった。

再確認できたのは、山の中で"木や土にかこまれて呼吸はせり、角触れたり、歩いていると、体が"なんかいいい杖"態"になるなあ、という事だ。

疲れも十分あって、「オウダ"×た"ーっ」って思う時もあるけど、

精神的に、肉体的に快い気がする。

おわりに、記しておきたいのは、山岳会に入る事、そして皆と山に行ける事を可能にしてくれている私自身のからだへの感謝だ。

大きいえば「信大にされた事を含まれている。

日常生活の中では、自分の足で歩けたり、手で何かは触れたり、見たり聞いたり、そういうことが本当に普通に感じられて、氣にもとめないけれど、山へ行くと、私を支えてくれている足も草木に触れる手も、景色を見れる目も、鳥の声もみんなの声を聞ける耳、おいしいごはんを味わえる口... もう、そういう全ての私の体に、ありがとう、と言いたいの、と思わされた。

これがなければ、何一つやりとげられない自分がいるということがわかった。

これから先、沢山 山へ行くと、その度にまた新しい発見があると思うけど、その1つ1つを大切に忘れずにいたいと思う。

先輩方、そして同じ1年の皆、ありがとう。

201.5.31、柳澤直子

反省, 感想 佐ト

今年の新人合宿の私の感じること、想うこと、たのしかった... 去年とは極に到る。一年生の変身、ぶりは見ものであった。見ていて、ちかおもしろい。仁義、忍耐一年F. ~~修~~ 修業ちや。  
と

反省はみんな言われたとうりです。知性あやさして目指したい。



# 新人合宿の反省と感想

(いろいろ感慨と談教してまた時に読んで)

4年生として、佐トに、1年生に伝えたいもの、伝えるべき事はまたまたある。新人合宿  
たけてはしても伝えきれない。来るべき冬に向けて、間に合うのかどうか。

それは一重に、上級生の努力と責任に帰せよう。

個人的には終始考へ、感じていた合宿だった。

一年生の気持ち、状態を考へ、会全体の行動、雰囲気も考へたのはもちろんのこと。  
自分の事も強く意識した。結論はまたまた全然である。自分に甘く、他人に教える  
事の方がまたまた多い。

又、一年生のピエタな心に触れて、涙の自然、上高地の自然、天使の柳の変わり  
肌で感じ、山岳会の代々変わらぬ喜びに感じられた。

また、これから山に踏み入る1年生と行動を共にしながら、1年生の頃の自分が古びて  
見えた。そんな中でも、4年目の自分を強く自覚した。

それだけが忘れられない合宿になったのならと思う。

合宿後の充実感にしばしかたろのもいいが、これから目標は夏合宿、岩登りである。  
新人合宿とは比べる程もなく、終始危険が付きまとう。

一年生は、体力UPはもちろん、精神的にも強くなろう。土壇場で必要とされるのは  
根性、気合であり、厳しい環境の中でも楽しめる強さ、たくましさ身につけてもら  
いたい。その他、今回反省した事は次回の山行、合宿で必ず活かせるようにしよう。  
くやしいと思つたのなら、次の山で返せばいい。いつまでも同じ反省を書くようでは  
ダメである。一歩でもいいから前進しよう。

山岳会はみんな楽しく山に登るだけのサークルではない、それだけを楽しみたいのなら、周りに  
ごろごろ、他の登山系サークルがある。自分達の責任の中で、普通の学生同士では  
いけない所へ登る。そのための努力、負担を受け入れるのも山岳会の醍醐味である。  
その採採を楽しんじゃって欲しい。

又、自分を晒すのは嫌でもつらいが、山に登ると、山岳会に入ると、いやでも裸の  
自分と向き合う時が必要である。その時どうするかは自分の自由である。

そんな場を得られるチャンスは、たにないと思う。

そんな時は knock までさ、他、上級生、他の一年生に気軽に相談すればいいのだ。  
お兄さん

一人で悩んでも解決しないぞ

年食うと話しが長くなる、でも、要するにやりくりをもつて、これから一年、山へ、岩へ、沢へ  
いろんな所へいこう、絶対楽しいぞ、ということです。

最後に、20モンリーの林太郎、かじにエールを送る。

15 6/ Box にて、Knock



一言「楽しかった」。

これは運営という面から見てのことも含まれる。今回、リーダーであったが、やりづらいとか、ほとんど疲れたということは全くなかった。その理由の一つにまず、上級生の役割分担がしっかりしていたということが挙げられる。常に全体のことを、そして全体の中で自分たちが何をすればよいのかを考えていくれたように思う。サンキューベリーマッチ。いろいろと助かった。

また1年生も、よく素直についてきてくれたと思う。「今年の1年生はやりやすい」というのが皆の見解であろう。この感じで頑張っていこう。

合宿消化に関しては消化不良であったが、それだけに得るものは大きかったのでは。山は登りたくても登れない時がある。槍の前日、中福が足の不調で行くのを諦めたことや、当日、時間の不足、体力的な問題、強風などの理由で府までしか行けなかったことなど、悔しいが、それは素直に受け止めよう。

また、一緒に登る仲間の大切さ。その他にも雪訓や生活技術一つ一つ細かいことの重要性。1年生は感じてもらえただろうか？

\*1年生へ いいものを持っているのだからそれを生かすように努力。これからのためにまずすべきこと、要体力！まずはこれ、基本！あと、大変な時こそ、皆で協力し合う。応援してやる。そういった心遣いをもって欲しい。

\*佐藤へ 上級生が少ないなか、よくやった。もつと1年生は俺が引っ張る！くらいの情熱をくれ。

\*4年生へ お疲れさま。お互いに甘えが出ぬよう注意しあいながら、全体を引っ張っていこう。

計画書の巻頭言に書いたが、新人合宿は、登山や山岳会というものの原点であると思っている。個々で得たものを自分の中でかみ砕いて、これからの活動に生かして行ってほしい。まだスタートラインに立ったばかりだ。これから岩登り、冬山などもっと厳しい場面が息をつくまもなく現れると思う。気合いを込めてやろう！

最後にまた一言、「楽しかった」。そして自分を含め、皆に一言、

うおりゃあっ！！！！！！

糸

の

報告

# 新人合宿のエッセンス

## 反省 佐

・ルーの量が少なかった。表示人数分の倍はもていった方がよい。

・マカボテの際、マカロニを忘れてしまった。

マカボテ材料

- マカロニ
- ホテトの素
- バジリコ
- マヨネーズ
- 牛乳
- バター

↑  
お好みで

↑  
がらしマヨもうチ!!

・最後の夕食 (天ぷら) の油が少なかった。材料の量にもよるが、5Lをもちいけば十分足りると思われる。

ゆらきのおしぼり <sup>ふ</sup> フッキング!!

～ 酒をば～

そば粉 200g

酒 200cc

砂糖 適

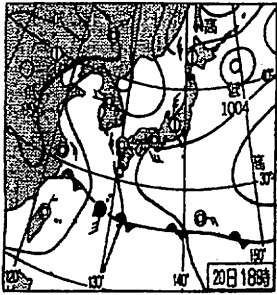
お湯の  
レーション  
100cc  
5L

混ぜ合わせる

平らにしてフライパンで焼く

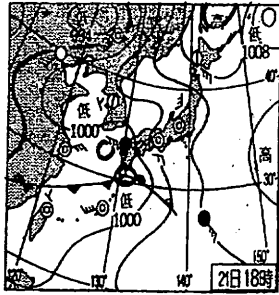
# 新人台宿 気象概要

3/20



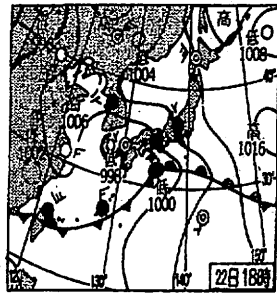
①  
 ちやうどいい心地の中津荷。  
 上級生は島々谷を染しむ。

21



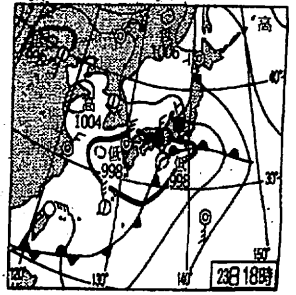
①  
 2日目も良い天気。  
 いかたおえ。

22



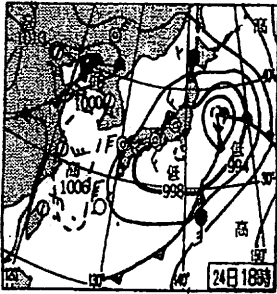
② → ●  
 寒い中雪訓!

23



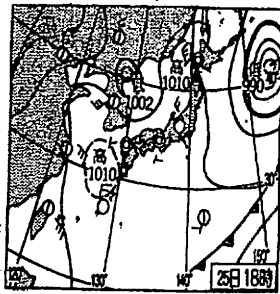
● 沈!  
 梅雨前線が  
 二本は?

3/24



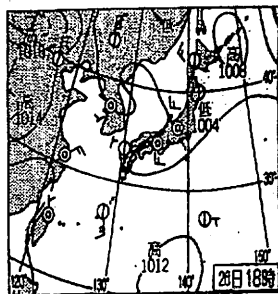
● 旧中  
 例年通り蝶へ。

25



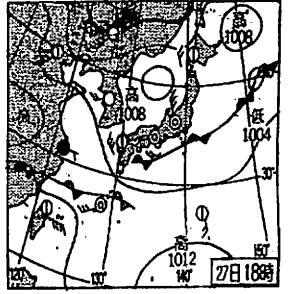
①  
 ふうやく青と白のコントラスト  
 が美しい海浜で雪訓。

26



② ① → ●  
 権の固は何にかもたが  
 宴会で小雨に(涙)

27



● → ①  
 朝の内は雨。かし!!  
 新村橋に近づくに  
 本晴れ前線が弱く  
 魚跳くすずす。  
 最終日は晴れる!!

● 係としての反省は特になし。1年生は天気図にも、心慣れよう。  
 対策は、教もいたすらこなすのみ。

● この雨は、雨男4人衆(4年生)のせいです。1年生、佐ト-に罪はありません。  
 申し分けなハス。



山行前はみんな  
 祈ろう。  
 4年生は日頃の行いを  
 特に良くしよう。

1年生

魂

の叫び

『自己紹介として』 片寄 哲生

この冊子をお読みの皆様方、おひかえなすって!

あ、いやあ、生まれを旧くは常陸の国、茨城は阿武隈山地の尾っぽも尾っぽ、日立の都にうけ、海<sup>がらぎ</sup>山を眺望して育てられ、齡+大にして羽前山形の飯豊の裾野に居を移し、彼の地にて山より沢の音と風の声に天然を仕込まれやんした。信濃の山神様は雄雄しというなれば、羽前の山神様は母なる豊かさをそなえてござんす。あ、しももの生れたあいなりのついたられっきとした日本男子でござんす。郷に入っては郷に従えとの先人のお言葉に遵じやして、信州の父っつあま方に体当たりしてみせんと賞悟する所存でかす。なにとぞ、信州大学山岳会に脈々と流れ受け継がれてきた魂があ、しの八尺の体軀にも注がれまして、晴れて天然にわけ入る精神が培われるよう、御祈願くだせえ。

長々と述べさせていたたきました御託もほかに、最後に一言、あ、しの魂の叫びと一首を。

I'll be a Big Men who is called  
by Mountain.

信濃路の  
山に向かい  
草を食み  
あやぶみ恐るか  
ゆきてわかるか

この前、献血に行って、21年間わからないままだった自分の血液型が、やっと判明しました。

B型でしたー！

B型は頑固らしい。あとは、自己中心的とか、わがまま、とか、  
いう話を聞きました。

何が一つも良いところがないB型ですが、半分は当たっている  
気がします。(もしかすると半分以上かも?)

私は、多分根本では頑固だと思っています。

「その為、時につき合いくわたりするかもしれませんが、  
どうぞ、今後とも、よろしくおねがいします。

「魂の叫び」って、何を書いていいかわからないので、  
このへんで終わります。

10/ 5. 31. 柳澤 直子

# 魂の叫び

1年 中福愛留

「山に登りたい!」という気持ちを持ったまま入学し、3週間くらいいびくしていた所を、直子と出会うことができて、山岳会に入ることになりました。最初に、トンと子からというも、どんどん、山岳会に、ひまわりからいき、とりに「おれさうになっただけです。実は所、山には登った事もない運動を全然してない、自由に登れるのか?」という事を少しも苦味に、「山には行きたい」という気持ちで入りました。

新人合宿を、不安でいっぱいでしたが、終わりに、自分ごとからいなるのかわかり、それから、自分なりに、本気で頑張ろうと思っていました。足を強くしたいといけません。改善しないといけない所はみんな気がします。

つらい瞬間はありますが、楽しい時は、本当に楽しい。山岳会みんなの出会いがこれほどあって本当に良かったです。大げさかもしないけれど、「山岳会」に入る私の人生は、変わりました。(大まか)。

日々の生活の見方も変わりました。今まで、あたり前だった事をあたり前じゃなく、健康で生きている事だ「け?」ありだ」だです。これから、とくと「山には行って経験を重ねたいです。

見た事を、聞いたことと想像したことを知らない、(可か、か)からいす気がします。

心身ともに強く成長してゆくとおもいます。



# 編集後記

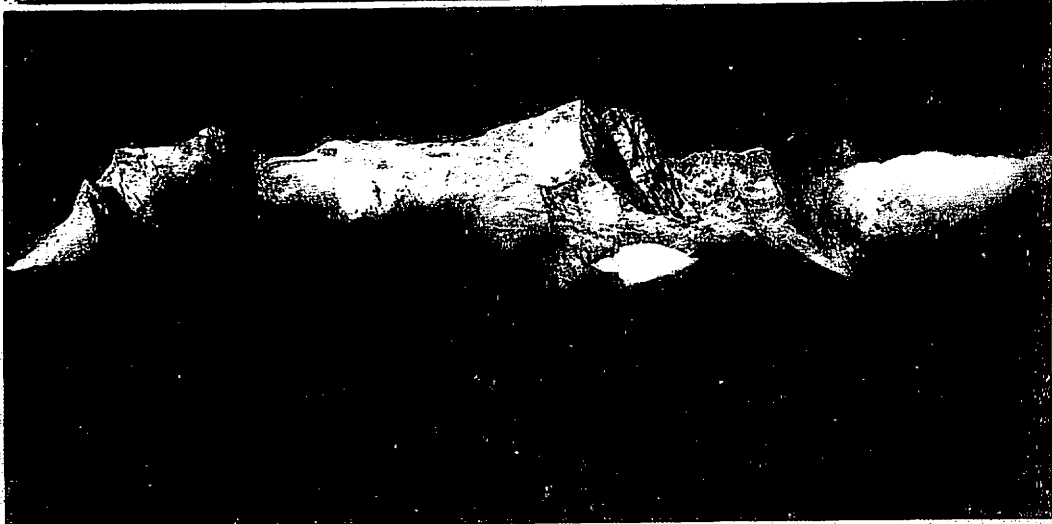
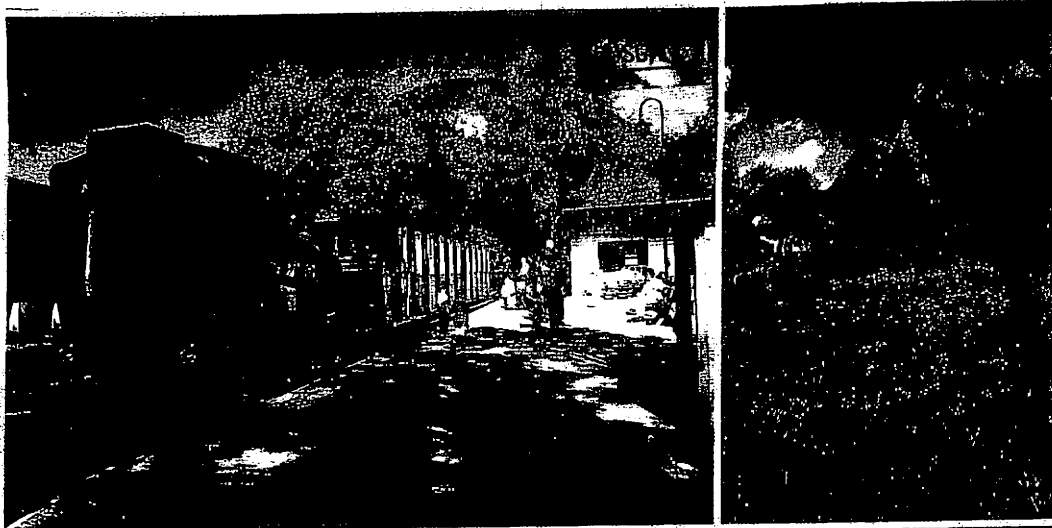
さ～すい!

おれんじ

可し

おれんじ  
おれんじ

おれんじ



印刷  
印刷  
編集  
表紙

6月13日  
松本  
横山  
中福